

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2020年9月28日(月)

NO. 1103号

本号3頁

改憲を阻止し、憲法が生きる新しい政治の実現へ

憲法共同センターが総会開催

憲法共同センター（戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター）の総会が25日、全労連会館で行われました。総会では、改憲を阻止し、憲法を生かした新しい政治への転換をめざす方針と新たな役員体制を確立しました。

初めに京都精華大学人文学部専任講師の白井聡氏が「コロナ後の社会と憲法問題」と題して講演。白井氏は、安倍政権の悪政・改憲策動を振り返り、行き詰った安倍政治を継承する菅政権の問題点を指摘し、憲法がないがしろにされているとして、「そもそも私たちは『憲法を持っている』と言えるのか?」と指摘し、憲法を守り・生かすとりくみの強化を呼びかけました。

次に、山添拓日本共産党参議院議員が情勢報告。市民連合の各党への要請や解散・総選挙をめぐる情勢等を語り、安倍政治・安倍改憲を継承するという菅政権の危険性を指摘し、市民と野党を強め、解散・総選挙をたたかい、野党連合政権の実現に向け、奮闘しあおうと訴えました。

その後、竹下武全労連常任幹事が議案と新たな役員体制・予算を提案。竹下氏は、市民と野党の共闘で安倍政権下での改憲を阻止したことを確信に、改憲を断念させるたたかいを継続し、「安倍政治」を終わらせ、憲法を守り生かす政治の実現を呼びかけました。さらに、「敵基地攻撃能力」保有のうごきに反対し、「軍事費削減でコロナ対策、医療、福祉、介護、教育の拡充を」のとりくみを提起し、市民と野党の共闘の前進へ、憲法共同センターの役割の発揮を訴えました。



また、新たに共同代表を設け、全労連顧問の小田川義和氏、新日本婦人の会の米山淳子会長、日本民医連の岸本啓介事務局長の3氏を提案しました。

討論では、埼玉の代表の渡辺正成憲法会議事務局長は、「弁護士会や連合埼玉とも共同した大規模集会を開催してきたが、新たな集会開催しようとして模索している。新立憲民主党ができて全衆院小選挙区での野党統一候補擁立の条件が整いつつある」と発言しました。また、オンラインで参加した大阪の代表の山田憲司憲法会議事務局長は、「大阪なくすな」との「大阪都」構想の反対運動や改憲阻止の大規模宣伝について報告しました。さらに、全教や自治労連の代表は、リーフレット「敵基地攻撃能力っていったいなに？」を大量活用して、軍事費を削ってくらし、コロナ対策にむける運動を強める等と決意を語りました。

閉会あいさつを憲法会議事務局長の高橋が行い、コロナ禍でも総会を成功させたことを力に、安倍なき「安倍改憲」阻止、敵基地攻撃能力の保有を許さないたたかい、そして近く実施されるであろう解散・総選挙で勝利し、憲法が生きる新しい政治を実現させようと呼びかけました。

会場でリーフレット「敵基地攻撃能力っていったいなに？」の宣伝・販売 憲法会議

憲法会議は総会会場で、その日発行した「敵基地攻撃能力」保有の問題点・危険性を紹介した、日本平和委員会とともに発行したリーフレット「敵基地攻撃能力っていったいなに？」の宣伝・販売を行いました。その場で100部近く売れ、さらに埼玉憲法会議から200部の注文があり、多くの団体から「執行委員会で購入を検討する」との声がありました。

イージス代替案は移動式洋上プラットフォーム 岸防衛相が表明

岸信夫防衛相は24日午前、秋田、山口両県への配備を断念した陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の代替策として、移動式の洋上プラットフォームにする方針を自民党国防部会・安全保障調査会合同会議で明らかにしました。

陸上イージスをめぐっては防衛省が地方配備をめざす過程で、ずさんな調査や根拠の薄い説明で地元の不信を招きました。このため政府高官は、配備に理解を得られる自治体はないとして、「レーダーや発射装置を陸上に置くことは不可能だ」と明言していました。

それで、防衛省はこれまで自民党などに、人工浮島などの洋上施設に、レーダーと発射装置を置くメガフロート案、イージス艦を増やす増隻案、陸上にレーダーを艦艇に発射装置を置く分離案を示してきました。

その中で、洋上案の弾道ミサイル迎撃に特化した専用艦の新造や石油採掘のような海上リグ型を想定しているようです。いずれも移動が可能になり、地上配備の場合と違い、打ち上げ時の推進装置の落下リスクなどはなく、住民の理解を得る必要はないとしています。陸上で配備する予定だったレーダー「SPY-7」や発射装置を搭載しますが、コスト増や気象に左右されやすいなどの課題が残っているとしています。政府は、来年度当初予算を決める12月末までに代替策を絞り込み、最終案を決定する方針です。



このように、探知・追尾用のレーダーと迎撃ミサイル発射装置を、陸上ではなく洋上に置く方向で検討しています。洋上のこれらのレーダーや発射装置にどれだけ予算が必要なのでしょうか、秋田・山口の2基で8千億円等と言われた予算が配備計画の廃止でなくなったわけではなく、逆に増額しそうな雰囲気です。

とんでもない！ 杉田水脈議員「女性はいくらでもウソ」と発言

自民党の杉田水脈衆院議員が25日、党本部であった会議に出席した際に、女性への性犯罪に絡んで「女性はいくらでもウソをつける」と発言したと、会議の出席者が証言したと各社が報道しています。女性蔑視そのもので、党内外から批判が沸き起こっています。

杉田氏は同日開かれた、来年度予算の概算要求の説明を受ける党の内閣部会などの合同会議に出席しました。その会議は非公開でしたが出席者によると、性暴力被害者を支援するための相談事業に関連し、杉田氏は元慰安婦支援団体に触れたうえで、事業を民間団体に任せることを批判。「女性はいくらでもウソをつけますから」と発言したということです。

会議後、杉田氏は取材に「そういう発言はしていない」と否定しています。元慰安婦支援団体を話題にしたとされる点については「聖域になり、誰も切り込めなくなっているといけないという指摘はした」と説明しています。

杉田氏は2018年、月刊誌で同性カップルを念頭に「子供を作らない、つまり『生産性』がない」と主張し、批判を浴びました。とんでもない、あきれ果てた自民党議員です。

共産党の田村智子政策委員長は25日、この発言を強く非難し、「怒りを抑えられない。被害者が泣き寝入りせずに相談できるようにする動きを妨害する、許し難い発言だ」と述べました。社民党の吉田忠智幹事長も談話で、杉田氏が2018年に性的少数者を「生産性がない」と指摘した経緯に触れ「国会議員としてふさわしくない。自ら進退を決するべきだ」と議員辞職を求めました。

各地のとくみ

大阪 各地で19日行動 富田林では子育て真っ最中のママさんがマイクデビュー

西淀川 JR 塚本駅でスタンディング行動。なんと、この行動には 48 人が参加。元気な宣伝行動になりました。

高槻 JR 駅前の陸橋の上にて 30 人参加、署名は 25 人分。手すりにステッカーを張り巡らせて視覚に訴えました。

四条畷 10:30 から 11:30、ダイエー前にて 6 人で宣伝・署名活動。安倍政治の最大の目標は「日本を戦争する国」にすることでした。菅首相はそれに「挑戦する」と言っています、と訴えました。

河内長野 11:00 から 12:00、花の文化園前。15 名参加、署名 10 人分。悪天候が予想されましたが、運よく快晴で気持ちよく宣伝できました。

羽曳野 道の駅で怒りの行動。「コロナに乗じた改憲を許すな」の横断幕を掲げ、19 人参加、署名は 35 人分。「内政も外交もすべて行き詰った安倍政治を終わらせるために力を合わせよう」など 5 人がマイクで訴えました。女兒連れの若いお父さんが「日本は子どもを育てるのにしんどい国になっている」と安倍政治への怒りを語りながら署名してくれました。

富田林 17:00 ロゼ前でスタンディング宣伝。弁士 5 人、子、子どもを抱っこしながら平和を訴えました。

堺 9/19 第 10 期総会を開催し、60 名を超す参加がありました。総会では阪南大の桜田照雄さんが記念講演。総会后中百舌鳥駅で宣伝行動を行いました。

◆これらのほかにも、城東九条の会は今福関西スーパー前、戦争法廃止・憲法守れ枚方実行委員会は 19 日抗議・宣伝・署名行動を枚方市駅前、戦争法廃止豊中アクションは 9/19 午前 11:00 から 12:00 千里中央モノレール駅前、それぞれ宣伝行動を行いました。

秋田 100 人が参加して戦争法廃止を求めるデモ行進

憲法改悪反対秋田県センターは、秋田市中通かいわいで、戦争法廃止を求めるデモ行進を行い、約 100 人が参加して「憲法改悪反対」「国民の暮らしと命を守れ」とコールをしてアピールしました。

同日、「総がかり行動実行委員会」は秋田駅前や大館市御成町でスタンディングやリレートークを行いました。大館市のリレートークでは、参加者が次々とマイクを握り、「戦争法を廃止するためにも、総選挙で市民と野党の共闘で力を合わせよう」などと訴えました。

日本共産党の笹島愛子市議、社民党の石田寛県議が参加し、立憲民主党の緑川貴士衆院議員がメッセージを寄せました。

福島 「総選挙で勝利して新しい政治に転換」とスタンディング宣伝

福島県各地でも「19 日行動」に取り組み、福島市まちなか広場では、改憲阻止県連絡会の主催でスタンディング宣伝が行われました。

大友仁事務局長は、菅政権のもとで「敵基地攻撃」能力保有の動きに言及し、「軍拡に次ぐ軍拡が展開され、国民の命と暮らしが深刻な状態に追いやられてしまう」と訴えました。

行動参加の嶋原努さんは「菅首相は安倍政治の継承を強調しており、反対の声を強めないと日本は恐ろしい方向に進むことになる。戦争法強行から 5 年、廃止を訴える市民と野党の共闘がさらに大きく前進し、総選挙で勝利して新しい政治に転換するよう期待している」と話しました。

白河市では、白河憲法共同センターの呼びかけで街頭宣伝を数カ所実施。「立憲主義や民主主義を踏みじめる安倍政治継承政権を断じて認めない」と強調しました。

長野・松本 「アベ政治の継続は許さない」とのプラカードを掲げ、リレートーク

長野県松本市で 19 日、様々な団体から 30 人ほどが駅前広場に集まり、スタンディング行動をしました。「安保法制は廃案に」「アベのままでスガ」「アベ政治の継続は許さない」などのプラカードを掲げ、リレートークをしました。

9 条の会から参加した児玉洋樹さんが、安倍政権は憲法違反の安保法制を強行させたが、「憲法を守って来たのは、市民と野党の共闘の勝利。ここに確信を持って安倍政権継承の菅政権に選挙で決着を」と訴えました。

「一人ひとりが傍観者ではなく、戦争をさせないために、ご一緒に声を上げましょう」と松本市の女性。安保法制違憲訴訟についてなど 9 人が訴えました。共産党や社民党の県議や市議も参加しました。